

令和4年度 事業報告書（さわら福祉会）

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

I 総括

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症が依然として猛威を振るう中、イベント等の制限を徐々に解除しながら、サービスの提供を継続することができました。また、感染症に関する補助金を活用し、介護ロボット及びオンライン面会に関するタブレットの購入などを行いました。その他の活動については、各施設の状況により臨機応変な対応を行いました。

マナハウスでは、7月には新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生し、利用者7名、職員4名の感染者が発生しましたが、感染拡大防止を最優先に対応することでユニット外へ拡大することなく終息しました。利用者のうち4名が人工透析を受けており、送迎対応が必要になるなど大きな負荷となりました。ワクチン接種も積極的に行いつつ、直接面会を柔軟に対応することで限られたなかではありますご満足していただきました。施設全体（特養・ショート）の稼働率は、94.4%（前年同一）となりました。

また、地域貢献活動も徐々に再開し、「ふら〜っとカフェ老岐南」や「老岐南てつだい隊」にも積極的に参画できました。

新規開設の介護付き有料老人ホームマナハウス2番館においては、工期の遅れにより令和5年5月開設となりましたが、令和5年1月時点で職員確保が完了し、入居者確保のための営業活動を進めております。

大池けいあい保育園では、10月から11月にかけて新型コロナウイルスの感染拡大により、運動会の参加者に影響が出たため、11月末の土曜日に「運動会ごっこ」を開催し、思い出作りとしました。また、開園3年目となり、保育方針として掲げているアクティブラーニングが浸透し、見学に来園された方や保育士から、「子どもたちの自立した生活」に高い評価を得ることができました。また入園希望者も増え、入園率は年間平均で112.6%に達成しています。

愛宕けいあい保育園では、今年度もコロナの影響もありましたが、開園3年目を迎え少しずつ保育方針が浸透したことにより、コロナ禍でもできる保育、行事を作っていくことが出来たと思います。「子どもの顔が生き生きとしている」「子どもの気持ちに寄り添ってくれる」「外でたくさん遊ばせてくれる」と地域の小児科医からも保育園を勧めていただき、転園を希望されてくる園児も多い状況にあります。

また、保育士の獲得が難しく、結果0歳児が受け入れられない状況が生じてしまいましたが、3歳以上児クラスの受け入れがあり、3年目にして初めて定員を超える園児数になりました。

法人全体の事業活動によるサービス活動収益は、6億8,615万円（前年比3,115万円増）。人件費は、4億7,305万円（前年比3,768万円増）。経費は、1億6,563万円（前年比1,074万円増）となり、事業の収益性を表す経常増減差額は、2,089万円（前年比1,326万円減）、法人の収益性を分析する指標である経常増減差額比率は、3.0%（前年比2.3%減）となりました。

II 各事業所の運営状況

法人本部

1. 経営基盤の確立及び施設整備

法人の適正な事業運営のため、各拠点の会計責任者（施設長・園長）が出席する定例会を週一で開催しました。定例会では、施設運営・収支状況に関する情報を共有し、適正な予算執行に努めました。

マナハウスの老朽化対策としての大規模改修工事をマナハウス2番館新築工事と共同で行いました。

2. 人材の確保・育成及び処遇改善

適正人員プロジェクトにより、適正な人員配置を原則とし、業務の効率性及び職員の意識改革を図りながら、派遣職員の活用を控える等、人件費の調整を行いました。

マナハウスについては、介護職員（正職員）の離職が「ゼロ」になったことにより、離職に伴う対応をすることなく、スムーズな施設運営ができました。保育士の新規採用についても学校訪問や職員寮の案内により新卒者を確保することができました。

将来の生産年齢人口の減少を見据えた対応として、業務の切り出しを進め、障がい者雇用や地域の元気な高齢者の雇用による裾野の拡大を図りました。

3. 福利厚生の充実

職員互助会については、令和4年度も引き続き新型コロナウイルスの影響により、忘年会・ボウリング大会など人が集まるイベントは中止となりましたが、イベントの予算を活用して、各施設での慰労会の実施、永年勤続表彰や会員への宅飲みセットの配付を年2回行いました。

職員の心理的な負担を把握するため、労働安全衛生法に基づいたストレスチェックを行いました。衛生委員会と協力して職員のメンタルヘルス（精神面における健康）に努めました。

マナハウス

1. 運営実績報告

今年度は、生産性向上に向け、大きな発展の1年となりました。令和3年度の介護ロボット ICT 補助金を活用し、バイタルセンサーの aams を導入したことで夜間巡回回数を大幅に削減し、音声入力の手ナストを導入したことで記録時間を大幅に短縮することができました。

また、産み出された時間と労力をかねてより準備していた介護職員による胃ろうと喀痰吸引の全面実施につなげることができました。稼働については、入院日数を思うように減らすことができず、目標稼働率 95.1% に達することができませんでした。

【稼働率】

サービス区分	定員	令和2年度	令和3年度	令和4年度
特別養護老人ホーム	69名	95.4%	95.6%	93.4%
ショートステイ	11名	87.8%	86.7%	101.0%
入居全体	80名	94.4%	94.4%	94.4%

【特別養護老人ホームの入居状況】

項目		令和2年度	令和3年度	令和4年度
延べ入居者数		30名	43名	37名
延べ退居者数		33名	43名	35名
延べ入院日数		1,016日	943日	924日
平均介護度		4.01	4.01	3.95
割合	介護度1	3.0%	1.5%	0.0%
	介護度2	3.8%	1.7%	1.6%
	介護度3	17.7%	23.4%	29.5%
	介護度4	40.7%	41.2%	41.2%
	介護度5	34.8%	32.2%	27.7%

2. 安全衛生管理状況

新型コロナウイルス感染症については、感染を完全に防ぐことは難しく、感染の有無にかかわらず粛々と感染対応を継続しました。定時での消毒および換気、発熱者への抗原検査、職員への PCR 検査および抗原検査などを徹底しました。県内の感染状況を鑑みながら面会方法を窓越し、オンライン形式と柔軟に変えつつ、感染者が少なくなった期間には、ワクチン接種や健康状態を条件に直接面会の機会を積極的に設けました。介護面では安全安心の介護のため、床走行リフト5台と浴室リフト2台（その他2台は従来のストレッチャー浴、リフト浴）を活用し、ノーリフティングケアの考えの浸透に向け委員会を発足しました。

【行政への事故報告件数】

内容	令和2年度	令和3年度	令和4年度
転倒・転落・接触	8件	3件	19件
誤薬・誤嚥・異食	0件	0件	0件
打撲・皮膚剥離	0件	0件	0件
食中毒・感染症	0件	0件	0件
その他	0件	0件	(胃瘻の抜去) 1件
合計	8件	3件	20件

3. 職員研修

新型コロナウイルス感染症の影響により、外部研修のオンライン化が進み積極的に活用しました。また徐々に集合対面研修も再開され、両方のメリットを最大限に活かした受講を心掛けました。内部研修においても同様に録画したものを活用し、受講機会を確保しています。また外部講師をお願いすることでより効果的な研修を実施することができました。

【主な内部研修】※参加数は、教材・レポート等による自己研修を含む。

	研修名	参加数		研修名	参加数
4月	基本理念、ハラスメント、事業計画	55名	10月	身体拘束廃止、虐待防止、権利擁護	55名
5月	食中毒	55名	11月	感染症（インフルエンザ・ノロ等）	55名
6月	リスクマネジメント	55名	12月	身体拘束廃止、虐待防止、権利擁護	55名
7月	認知症	55名	1月	リスクマネジメント	55名
8月	看取り	54名	2月	急変時対応、オンコール	54名
9月	褥瘡	55名	3月	接遇	53名

4. 行事報告

新型コロナウイルス感染症の影響により、外部ボランティアを制限していましたが、県内の感染状況によりオンラインや窓越しでの実施に切り替えて実施できました。また感染対策を徹底した上で、外出の機会を再開したり、施設内行事を再開したりと徐々に日常を取り戻す1年となりました。

【主な行事】

	行事名
春	桜花見、木の葉モール買い物、果物狩り、ちらし寿司、映画観賞会
夏	ナイトマナカフェ、デザートバイキング、花火
秋	コスモス花見、敬老会
冬	たこ焼き、鍋、寿司
通年	誕生会

5. 地域貢献活動

新型コロナウイルス感染症の影響により、縮小していた地域活動も徐々に再開し、地域カフェである「ふら〜っとカフェ壱岐南」、地域ボランティア支援事業である「壱岐南てつだい隊」へ積極的に参画しました。

認知症の啓発のため、子どもや地域向けに「認知症サポーター養成講座」や「ユマニチュード講座」も積極的に実施しました。

残念ながら子どもの学習・食事支援「学 viva」、地域包括ケアシステム構築に向けた「地域包括ケア壱岐南モデル準備室」、事業所ネットワーク「西第4,7地域医療福祉ネットワーク」は中止となりましたが、再開に向け準備を始めています。

大池けいあい保育園

1. 運営実績報告

今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により、運動会の参加者に影響が出たため、11月末の土曜日に「運動会ごっこ」を開催し、思い出作りとしました。また、感染予防対策として実施してきた「あいうべ体操」やどろ遊び・畑の土いじり、材木や木に触れて遊ぶこと、さらには腸内環境改善として玄米ご飯提供等の効果がありました。開園3年目となり、保育方針として掲げているアクティブラーニングが浸透し、見学に来園された方や保育士から、「子どもたちの自立した生活」に高い評価を得ることができました。入園希望者も増え、入園児は年間平均で112.6%に達成しています。

【園児数】

クラス	年齢	定員	4月時点	3月時点	定員充足率
たんぽぽ組	0歳	12名	7名	12名	100.0%
すみれ組	1歳	12名	15名	15名	125.0%
れんげ組	2歳	14名	15名	16名	114.3%
ゆり組	3歳	14名	17名	17名	121.4%
ひまわり組	4歳	14名	17名	17名	121.4%
さくら組	5歳	14名	15名	15名	107.1%
合計		80名	86名	92名	115.0%

2. 行事報告

プール開き、七夕、クリスマス、節分などの行事では、神事として全園児で礼拝するなど、厳かな雰囲気を体験しながら、園児の「心」を育てることを意識しました。

【主な行事】

	行事名
春	ひなまつり、卒園旅行、子どもバンド演奏会、親子遠足
夏	プール開き、スイカ割り、とまとでケチャップ作り、しぼり染め
秋	運動会、お店ごっこ、いもほり〜クッキング、七五三参拝、遠足
冬	クリスマスコンサート、オカリナコンサート、初詣、節分
通年	ぞうきん縫い：裁縫、畑で野菜づくり、お誕生日のお祝い

3. 職員研修

「人権に配慮し子ども一人ひとりの人格を尊重する」という保育理念に沿っての研修を実施しました。また、アクティブラーニングのOJTにも継続的に取り組みました。キャリアアップ研修では、eラーニングを中心に延べ12人が48コマの講義を受講しました。

【主な施設内研修】

	研修名	参加数		研修名	参加数
4月	自治活動とは	19名	10月	階段を駆け上がる子に	18名
5月	朝の泣きへの対応	19名	11月	育児担当について	15名
6月	保護者への声かけ	18名	12月	遊ぶ環境とリスクマネジメント	18名
7月	アクティブラーニング	17名	1月	遊びこむ環境構成	19名
8月	虐待について	18名	2月	困っているのは、その子	16名
9月	信じて待つ力	15名	3月	心に残ったエピソード	12名

愛宕けいあい保育園

1. 運営実績報告

今年度も、コロナの影響もありましたが、開園3年目を迎え少しずつ保育方針が浸透したことにより、コロナ禍でもできる保育、行事を作っていくことができました。

「子どもの顔が生き活きとしている」「子どもの気持ちに寄り添ってくれる」「外でたくさん遊ばせてくれる」と地域の小児科医からも保育園を勧めていただき、転園を希望されてくる園児も多い状況にあります。保育士不足があるため、職員同士で連携を取りながら日々の保育を進めていくことになりました。また、保育士の獲得が難しく、結果0歳児が受け入れられないという悪循環が生じてしまいました。

【園児数】

クラス	年齢	定員	4月時点	3月時点	定員充足率
たんぽぽ組	0歳	12名	5名	11名	91.7%
すみれ組	1歳	12名	14名	15名	125.0%
れんげ組	2歳	12名	15名	15名	125.0%
ゆり組	3歳	14名	14名	15名	107.1%
ひまわり組	4歳	15名	13名	13名	86.7%
さくら組	5歳	15名	18名	18名	120.0%
合計		80名	79名	87名	108.8%

2. 行事報告

今年度は、今まで好評であった「保育参加」について、コロナの感染状況をみながらやり方を変え、年間を通して一度保育参加をしてもらうこととしました。春に実施した「保育参観と懇談」では、子どもたちの園での生活を知りたい保護者に好評でした。

【主な行事】

	行事名
春	入園式 保育参観 保護者懇談会
夏	プール開き スイカ割り しぼり染め 年長お楽しみ会 1年生交流会
秋	運動会 秋祭りごっこ いもほり～クッキング 敬老のお祝い
冬	クリスマス会 親子観劇会 節分 お別れ遠足 卒園式
通年	誕生会 避難訓練 園児健診 歯科検診 保育参加

3. 職員研修

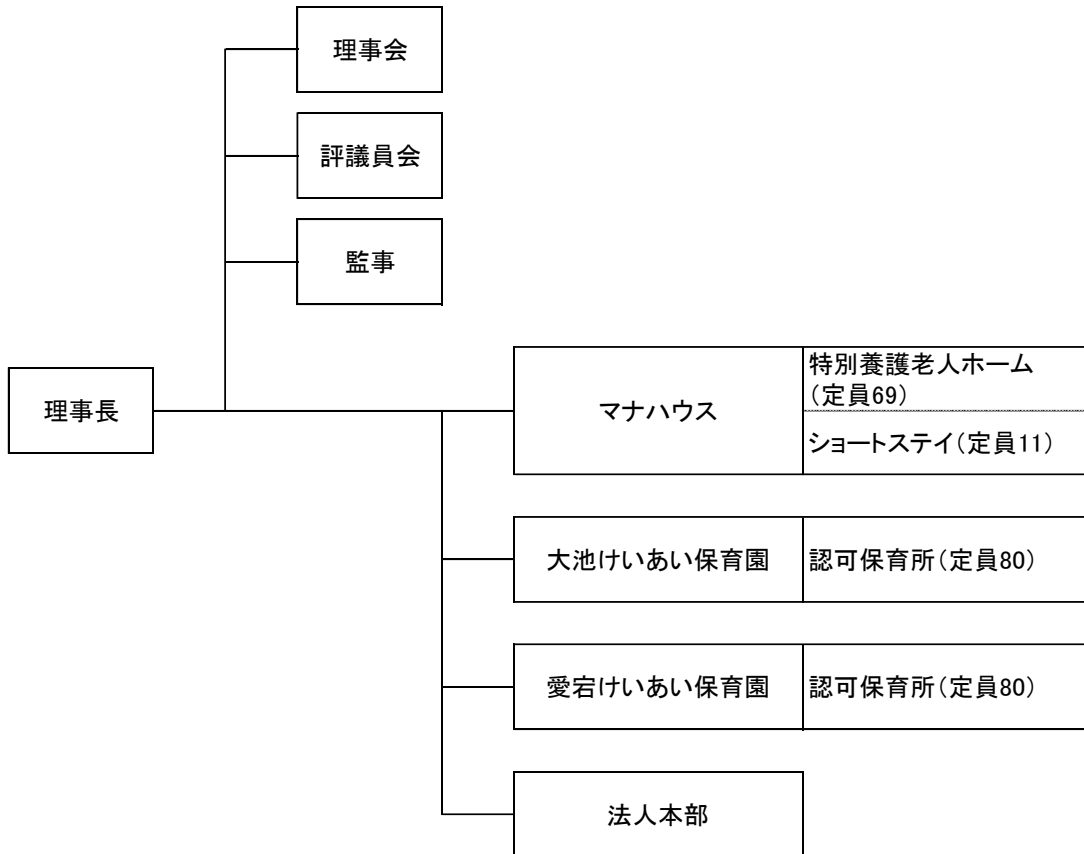
今年度は、外部からも講師を招き保育環境や障がい児保育について学び合うことができました。また、園だよりでは毎月テーマを設けるようにし、クラスだよりでは、子どもの姿に合わせて担当保育士の思いも載せることができるようになりました。そ

【主な施設内研修】

	研修名	参加数		研修名	参加数
4月	各年齢の発達課題	16名	10月	各年齢の身体づくりとあそび	18名
5月	未満児以上児の環境	16名	11月	気になる子の冰山モデル	17名
6月	感覚統合について	16名	12月	山田真理子研修の活用	17名
7月	事例検討会	17名	1月	食事に関するマニュアル作り	19名
8月	アクティブラーニングとは	18名	2月	不適切保育について	19名
9月	未満児の保育環境を考える	18名	3月	一年の振り返り	18名

III 組織図

令和5年3月31日現在



【職員数】

施設名	介護職		看護職		保育士		他の専門職		合計
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	
マナハウス	34	2	3	5			9	10	63
大池けいあい保育園					15	4	5	2	26
愛宕けいあい保育園					15	3	5		23
法人本部							5		5
合計	34	2	3	5	30	7	24	12	117

事業報告の附属明細書

令和4年度事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、事業報告の附属明細書は作成していない。

社会福祉法人さわら福社会
理事長 益田康弘